

モード Mode Mode は語る

中野 香織

天然石に感じる美的価値

ヴァン クリーフ&アーペルの新しいジュエリーのコレクションは、シェイクスピアの戯曲「ロミオとジュリエット」から着想を得て制作された。世界各地から集められたルビー、サファイア、エメラルドは、キャピュレット家の赤、モンタギュー家の青、両家融合のモーヴ、そして希望の緑という意味を担って作品世界の中で新たな輝きを放つ。石そのもののパワーに16世紀ヴェローナの愛の物語というイマジネーションが加わった一点ものは、億単位の価値を帯びる。

地球の深奥に眠る石に美を見出し、採掘し、カットして磨きあげ、物語や意味



ヴァン クリーフ&アーペルの新作「アレアンツァ ネックレス」

を与えることで高い価格をつけて販売する。こうした宝石ビジネスが大昔から成り立ってきた。であれば、ダイヤモンドやルビーを他の石に置き換えるとどうなのか。地球のアーカイブのような石の表情に美を見出し、カットして磨きあげ、見立てによるアートな価値と意味を与えて販売する。これもありではないか。

このようなビジネスに可能性を見出し、成功させたのが、宮城県大蔵山スタジオの山田能資さんである。家業では伊達冠石を採掘し、石積み工事や墓石に使っていた。5代目となる山田さんは方向を変え、石の作品をギャラリーで展開し

たり、高級ホテルに納品したりした。海外にも輸出し、いわば、伊達冠石のラグジュアリー化に成功したのである。

宝石であれ伊達冠石であれ、2000万年の歴史をもつ。そんな悠久の時間が流れる石に対し、人間はおそれ、霊的な力を持つものとしてあがめてきた。新作ジュエリーや伊達冠石のオブジェを眺めると、その原初的な意味に気づかされた。「さざれ石が巖となる」ほどに、石はゆっくりと生きているのだ。

人工ダイヤモンドが市場をにぎわすが決定的に欠けているものがある。人知を超える地球の時の流れの物語である。永遠の時間とつながることに対する畏敬の念を天然石は呼び起こす。そんな人間的な想像力と感情にこそ、人は高い価格を払うことを惜しまない。

地球史的物語への畏れ